

# いちりん通信

No.29

## チームケア



### 【症例報告】

渋谷区 H様 80歳 男性 パーキンソン病・歩行不可 週2回治療

Hさんはパーキンソン病で、介助で立ち上がり・立位保持がかなり難しい程度です。しかし、ご家族はどうしても「歩いてほしい」という思いが強く、実際に歩くことは不可能なのに、「歩行リハビリをして下さい」と強く迫ってきます。

### その1 意見がバラバラな時こそ

Hさんはボソボソと一言二言しか話すことができません。また、どうみてもご本人様のお身体は歩きたがっていません。この状況下でご本人様とご家族との意見がバラバラな時、転倒やぎっくり腰など、思わぬ事故が起きることがあります。

そんな時、大切になるのが「チームケア」です。介護に直接関わるヘルパーやケアマネジャー、訪問看護師や往診医などと担当者会議で意見を交わし、共通のゴールを設け、リスクを回避する方法を探る。これがチームケアです。

### その2 チームスポーツと似て

各々の専門家が自分の専門領域だけを担当していれば良いのか？…答えは勿論、ノーです。そうではなく、目指すゴールや方法論、意識を1つにまとめていくことで、一人一人の専門家が1つのチームとして統一した動きを図ることができるのです。

これは例えるなら、サッカーなどのチームスポーツと似ています。自分の守備範囲を守っているだけでは、連携ミスが出たり、思わぬ落とし穴を突かれたりと、想定外のことが多々起きます。しかし、チームとして1つにまとまった時、互いに補い合い、普段通りの（または普段以上の）力を発揮することができるのです。

### その3 Hさんのその後

Hさんはその後も事故無く過ごすことができました。少しずつご家族が気持ちを打ち明けて下さり、過剰だった思いも当初よりは落ち着き、Hさんのお身体の変化を少しずつ受け容れていくことができました。「事故を起こして後悔する」という最悪のシナリオを防ぐことができたのです。

(F・K)

